

# ニュージーランドの 乳製品生産・輸出動向

平成26年7月25日

独立行政法人農畜産業振興機構

調査情報部 根本 悠

# 本日の内容

- ▶ 1 ニュージーランド（NZ）の酪農の概要
- ▶ 2 NZの生乳生産動向  
～依然続く増加傾向～
- ▶ 3 乳製品国際価格の動向  
～高騰から一転、下落へ～
- ▶ 4 NZの乳製品輸出動向  
～中国向け輸出の急増～
- ▶ 5 まとめ

# 1 ニュージーランド (NZ) の 酪農の概要

# (1) NZの酪農の特徴①

- ▶ 放牧主体の低コスト酪農
- ▶ 「季節搾乳」～春から夏に集中的に生産
- ▶ 国内市場が小さく、大半が輸出向け
- ▶ 乳量よりも乳固形分を重視
- ▶ 乳価は乳製品の国際価格に連動



## (2) NZの酪農の特徴②－日本との比較

	NZ			日本		
	2002/03年度	2012/13年度	増減率 (%)	2003年度	2013年度	増減率 (%)
酪農家戸数 (戸)	13,140	11,891	▲ 9.5	28,800	18,600	▲ 35.4
経産牛飼養頭数 (千頭)	3,741	4,784	27.9	1,088	893	▲ 17.9
1戸当たり飼養頭数 (頭)	285	402	41.1	59	75	27.1
生乳生産量 (千キロリットル、 千トン)	13,906	18,883	35.8	8,405	7,447	▲ 11.4
1頭当たり乳量 (リットル、 キログラム)	3,718	3,947	6.2	7,725	8,154	5.6

資料：農林水産省、Dairy NZ資料より機構作成

注1：NZの年度は6月～翌5月、日本は4月～翌3月

注2：生乳生産量、1頭当たり乳量の単位は、NZはリットル、日本はトン・キログラム

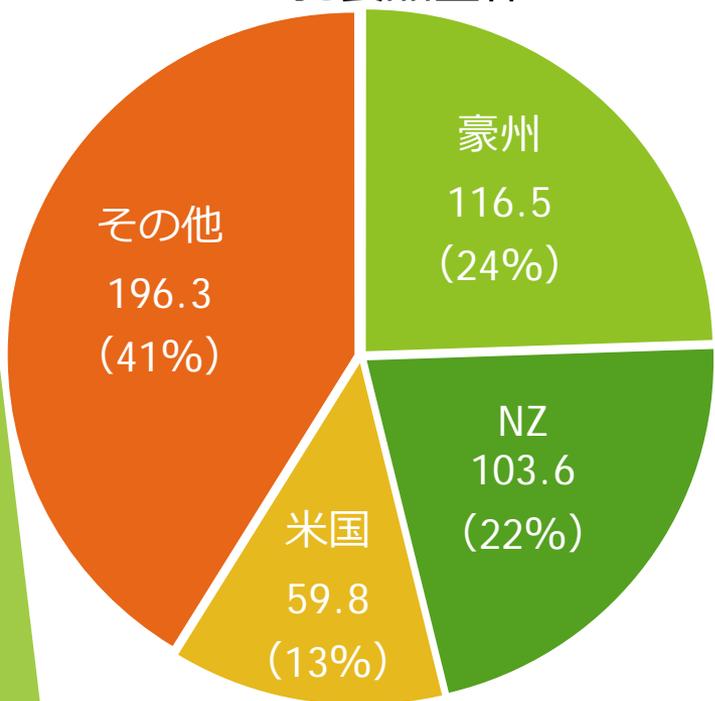
# (3) NZの酪農と日本との関係

## ▶ 日本にとって豪州と並ぶ乳製品の輸入先

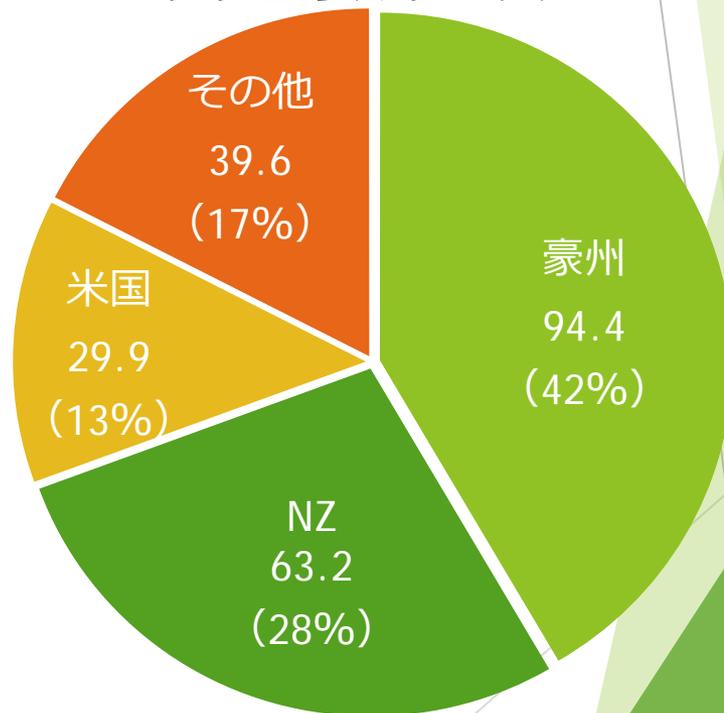
日本の国別乳製品輸入量 (2013年)

(単位：千トン)

乳製品全体



ナチュラルチーズ

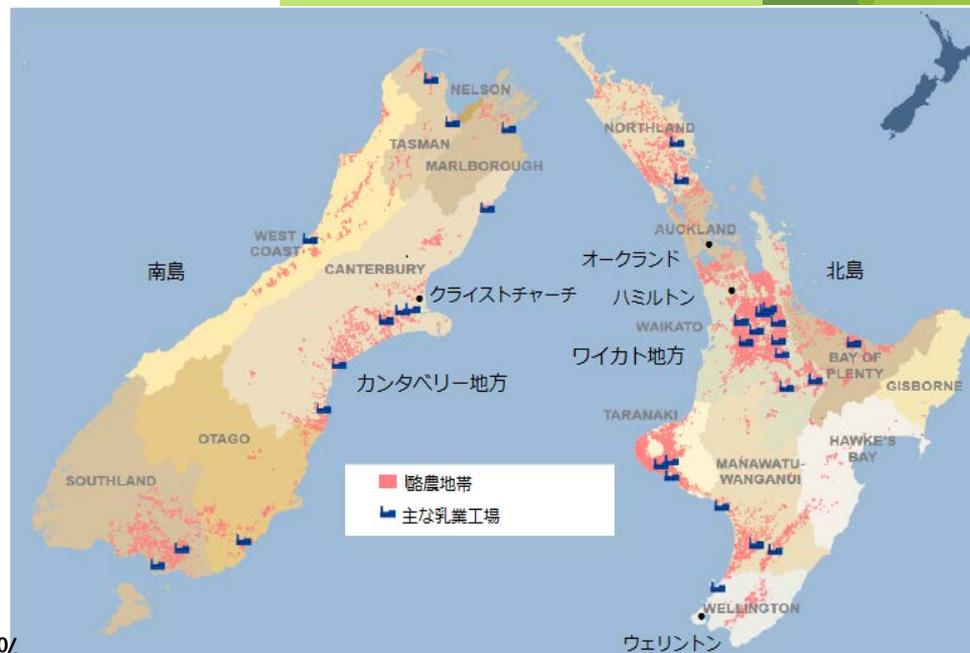
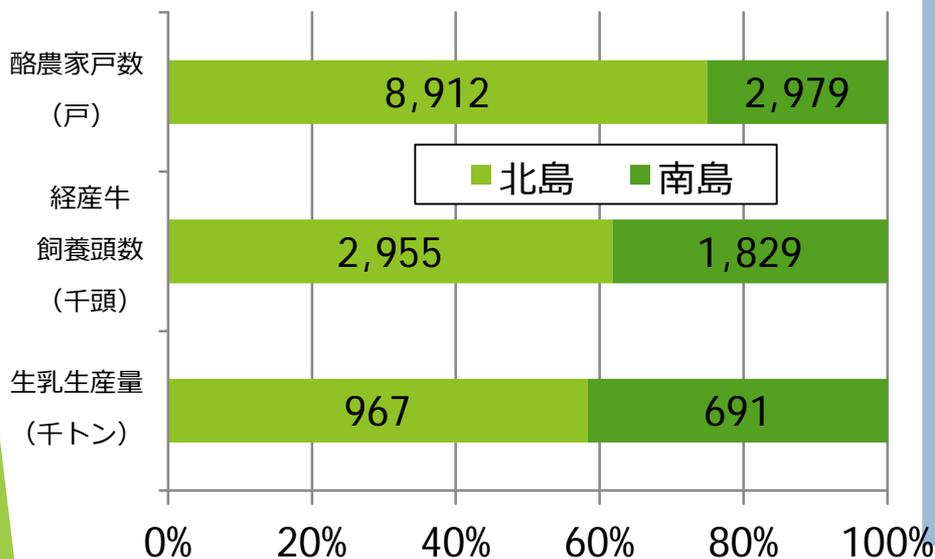


# (4) NZの主要酪農地帯

- ▶ 最大の酪農地帯は北島ワイカト地方  
ただし、土地の制約により、今後の増産は限定的
- ▶ 近年は南島カンタベリー地方の生産が急拡大  
かんがいの整備による大規模経営
- ▶ **南島の飼養規模（約600頭）は北島の2倍近く**

## NZの酪農地帯

### NZの酪農に関する北島と南島の比較



資料 : LIC、Dairy NZ

注 1 : 2012/2013年度 (6月~翌5月)

注 2 : 生乳生産量は乳固形分ベース

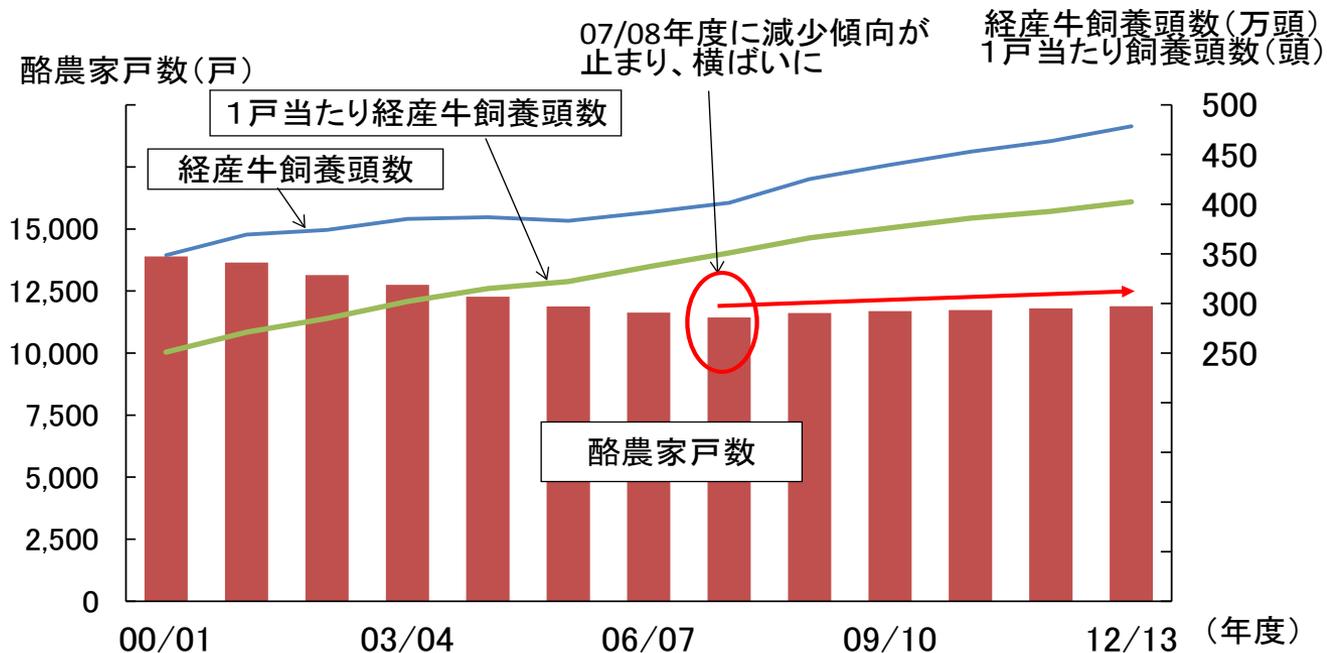
資料 : NZ一次産業省資料  
より機構作成

## 2 NZの生乳生産動向

# (1) 酪農家戸数、頭数の推移

- ▶ 酪農家戸数は、07/08年度以降、減少傾向から横ばいに
- ▶ 経産牛飼養頭数は、他部門（肉牛、羊）からの転換と、大規模化の進展により増加傾向

## NZの酪農家戸数などの推移

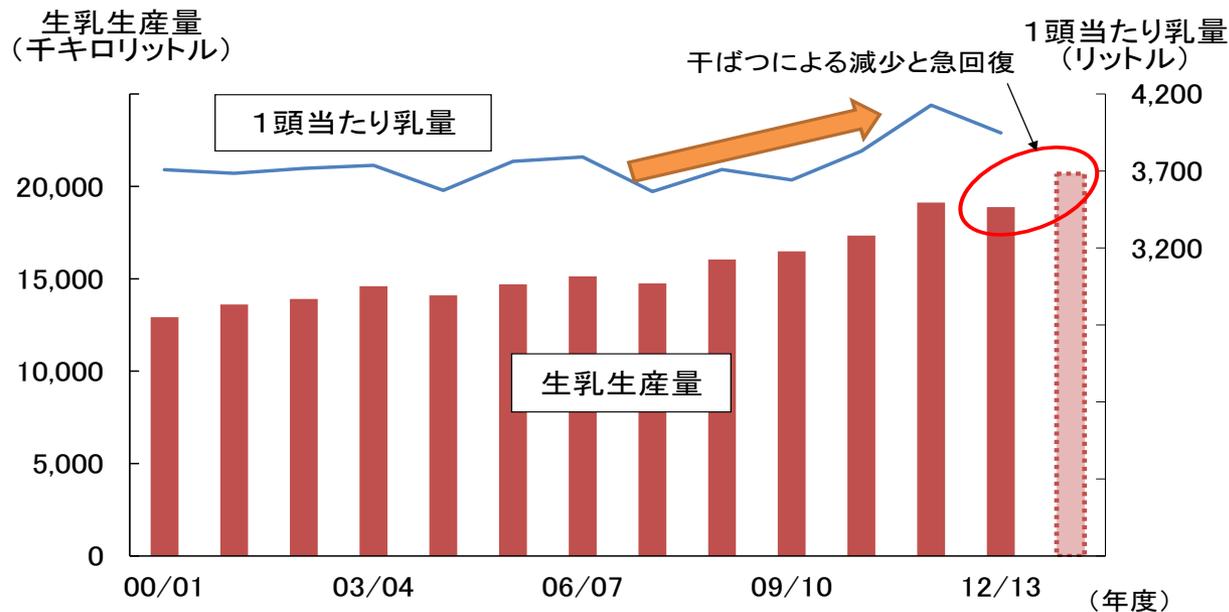


資料：LIC, Dairy NZ  
注：年度は6月～翌5月

## (2) 生乳生産量の推移

- ▶ 1頭当たり乳量は、12/13年度は干ばつにより減少するも、07/08年度以降、増加基調
- ▶ 生乳生産量は、07/08年度以降、飼養頭数の増加に伴い、増加幅が拡大。12/13年度は、干ばつにより減少するも、13/14年度には急回復

### NZの生乳生産量などの推移



資料：LIC、Dairy NZ、DCANZ

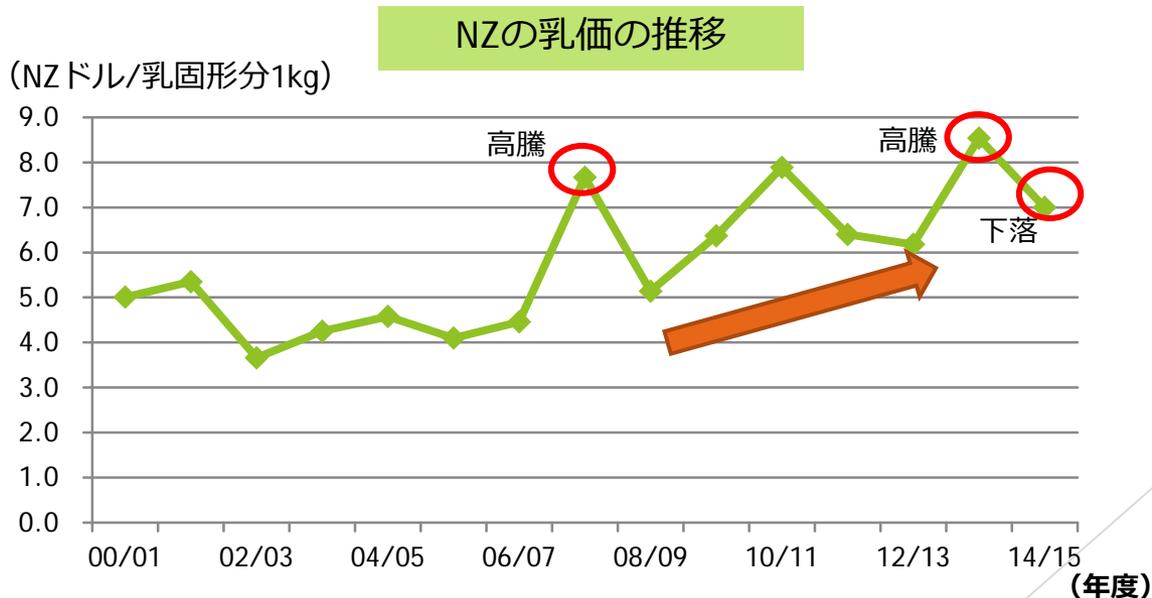
注1：年度は6月～翌5月

注2：2013/14年度の生乳生産量は、DCANZによる速報値（重量ベース）を1kg=0.97リットルとして換算した推定値

# (3) 生乳生産増加の要因①

## <記録的な高乳価>

- ▶ 2006/07年度まで：低コスト酪農に見合った低い乳価
- ▶ 2007/08年度以降：変動は大きいものの、乳製品国際価格の高騰を受けて上昇基調
- ▶ 2013/14年度：乳製品国際価格が高騰し、過去最高の乳価
  - 酪農家の増産意欲が向上
- ▶ 2014/15年度（2014年7月現在）：乳製品国際価格の下落により、低下
  - 過去の水準と比較すれば、依然として高水準



資料：Dairy NZ、NZ一次産業省、フォンテラ

注1：年度は6月～翌5月

注2：2013/14年度はNZ一次産業省の推定値、2014/15年度はフォンテラの初期乳価

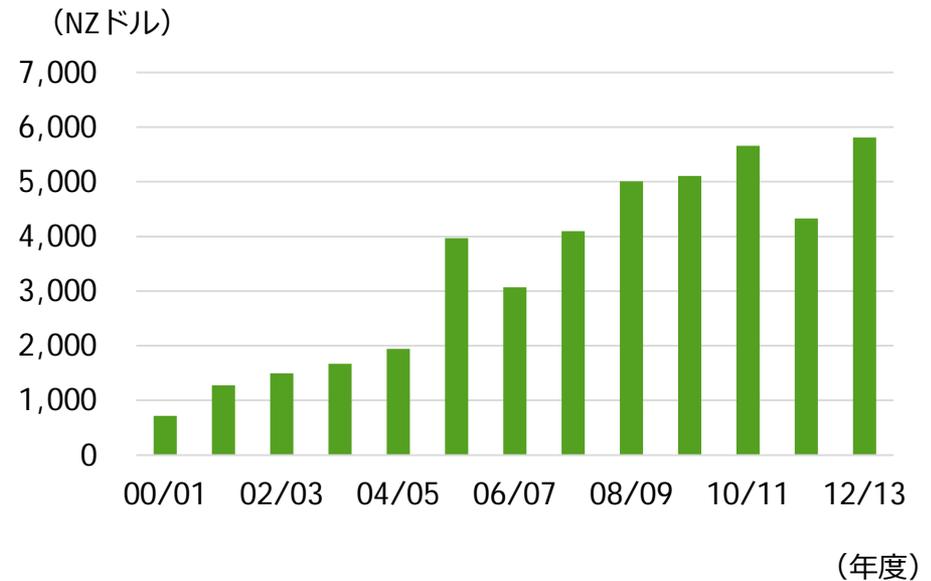
## (4) 生乳生産増加の要因② ＜かんがいの整備＞

- ▶ 南島において、かんがいの整備により、生乳生産が急増
- ▶ 将来的には南島の生産が北島を上回る見込み
- ▶ かんがいのためのコストは酪農家にとって大きな負担

### NZの大規模なかんがい設備



### NZの酪農家のかんがい費用の推移 (1経営体当たり)



資料 : Dairy NZ  
注 : 年度は6月～翌5月

# (5) 生乳生産増加の要因③

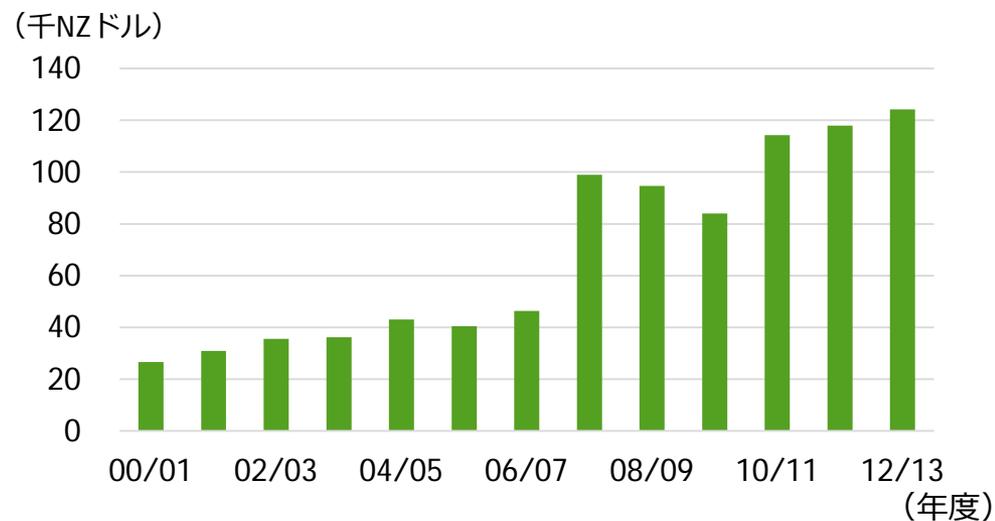
## <補助飼料の増加>

- ▶ 近年、乳価の上昇に合わせて、補助的な飼料の利用が増加
- ▶ 主な補助飼料は、トウモロコシ、小麦、大麦、そしてPKE
- ▶ PKE (Palm Kernel Effluent) : 搾油時のやしの実のかす  
マレーシアやインドネシアから輸入。近年、輸入量が急増

PKE



NZの酪農家の飼料費の推移  
(1経営体当たり)

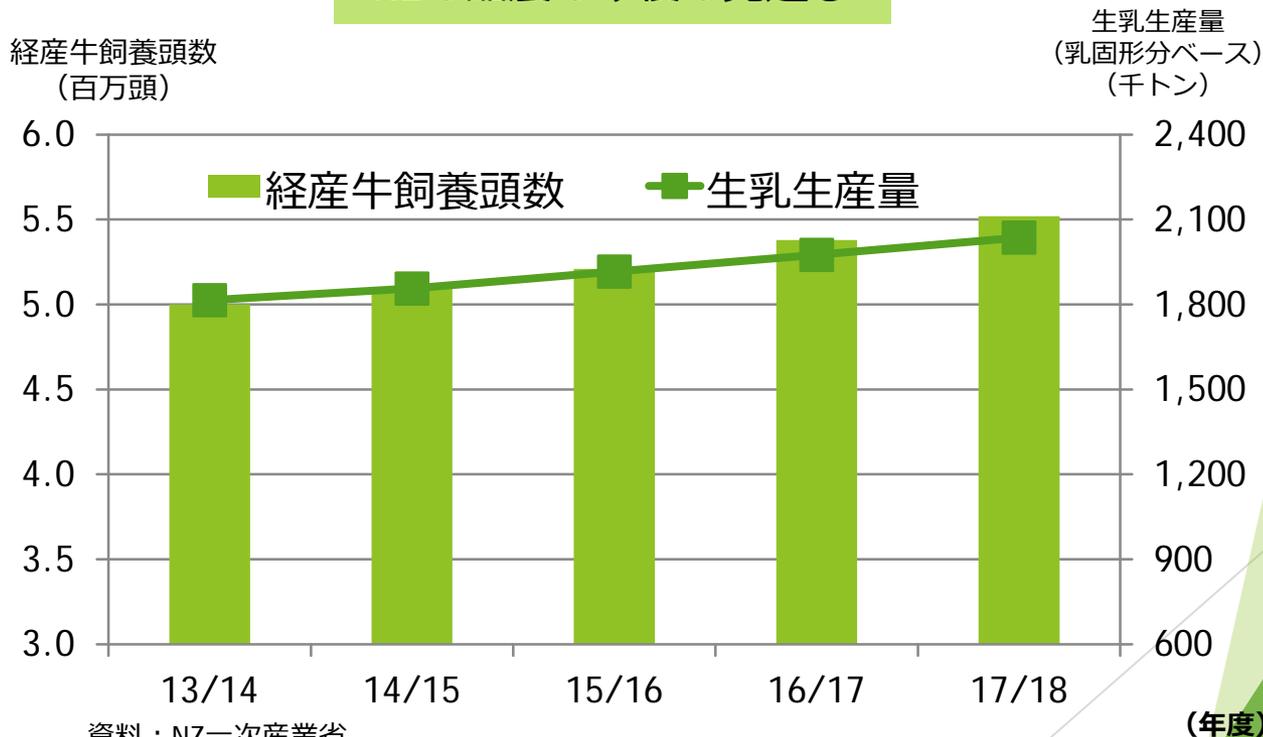


資料 : Dairy NZ  
注 : 年度は6月～翌5月

## (6) 今後の見通しと課題①

- ▶ 当面の経産牛飼養頭数、生乳生産量は、高乳価から増加傾向の見込み
- ▶ 特に南島における生産が拡大傾向。一方、北島の生産拡大は限定的

NZの酪農の今後の見通し



資料：NZ一次産業省

注1：2013/14年度は推計、2014/15年度以降は予測

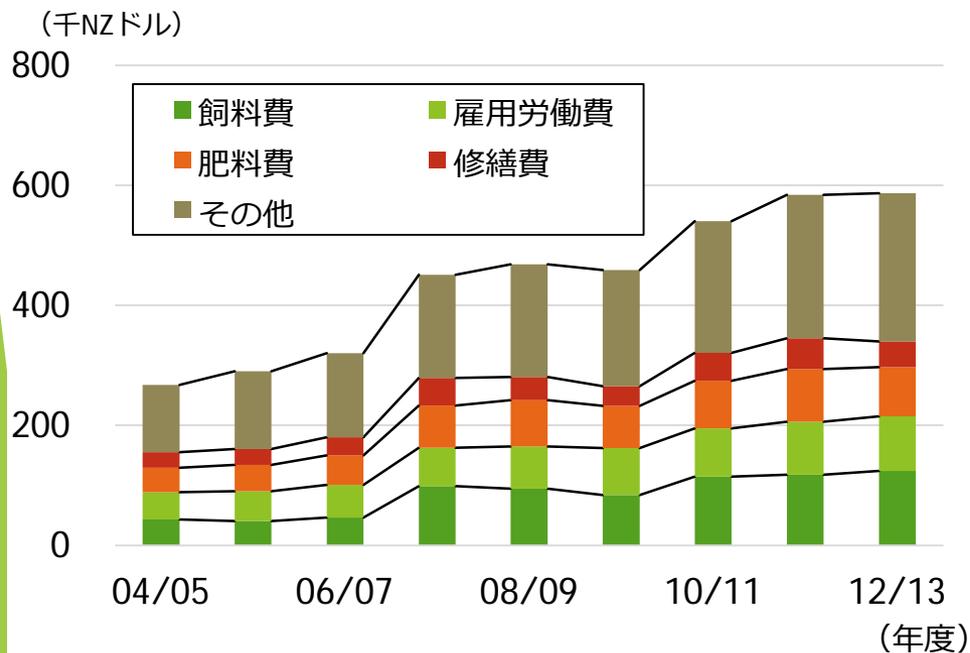
注2：乳牛飼養頭数は各前年7月1日現在

注3：生乳生産量は6月～翌5月

# (7) 今後の見通しと課題②

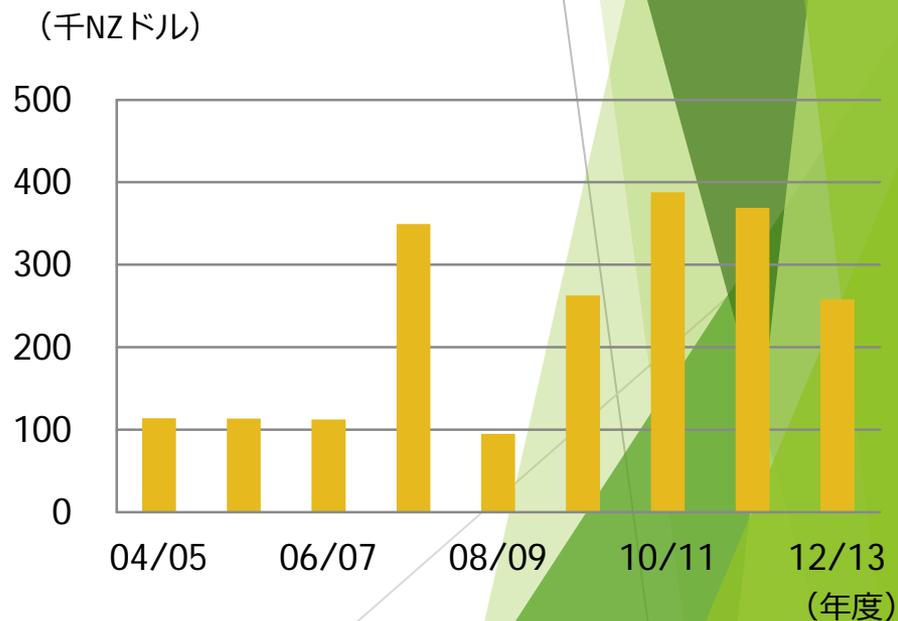
- ▶ 生乳生産増加の前提は、これまで同様の**高乳価**。一方、補助飼料など**生産コスト**の増加により、**所得は2年連続減**
- ▶ 「ハイインプット・ハイアウトプット」傾向のなか、**安定的な収益の確保が課題**

NZの酪農家における生産コストの推移  
(1経営体当たり)



資料 : Dairy NZ  
注 : 年度は6月～翌5月

NZの酪農家における所得の推移  
(1経営体当たり)



資料 : Dairy NZ  
注 : 年度は6月～翌5月

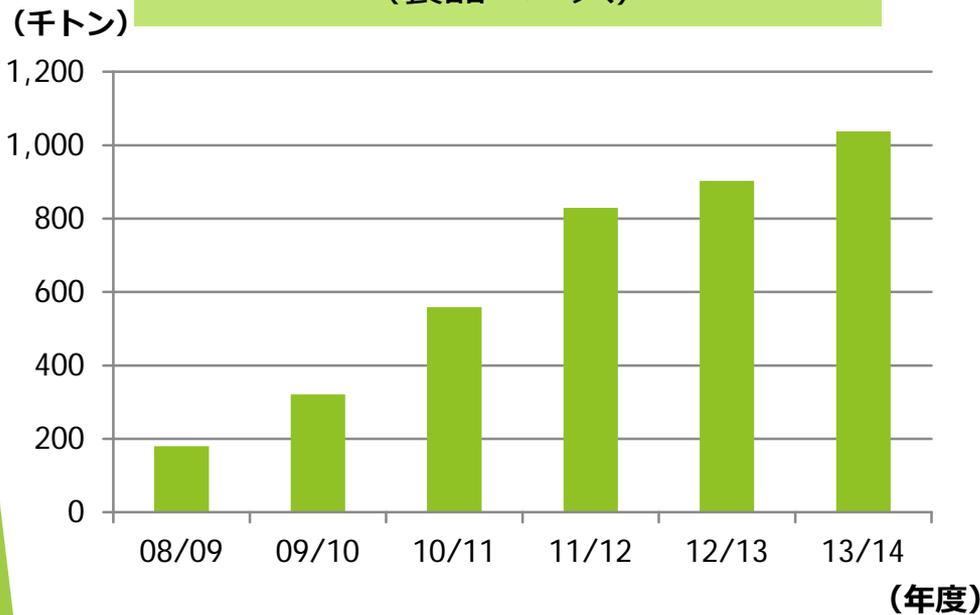
### 3 乳製品国際価格の動向 (乳価上昇の背景)

# (1) 乳製品国際価格－GDT

- ▶ GDTは、フォンテラ（後述）が主催する乳製品の電子入札市場
- ▶ 売り手は、フォンテラ、アーラフーズなど国際乳業メーカー
- ▶ 買い手は、世界各国の乳業、流通業など90カ国700以上の企業
- ▶ 主な品目は、全粉乳、脱脂粉乳。参加者数、売買数量は増加傾向

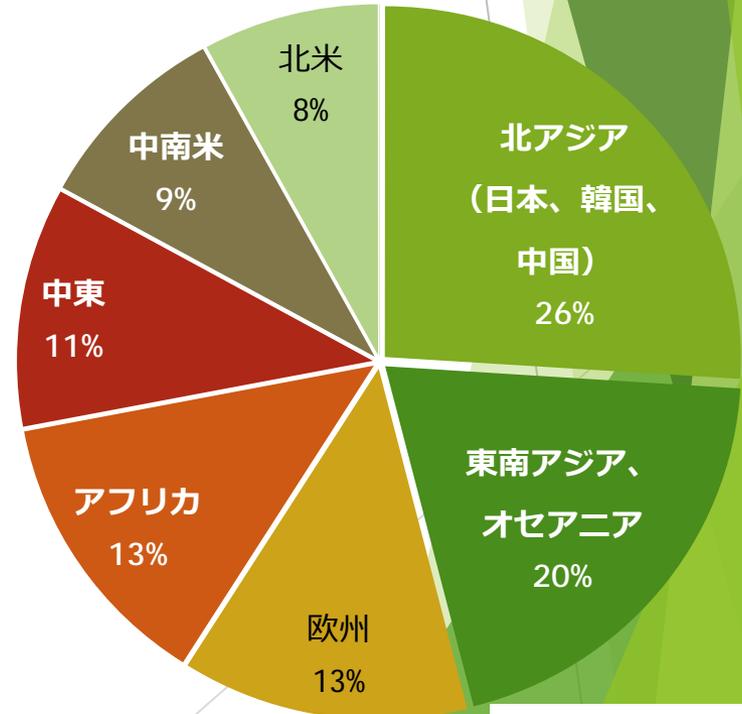
→乳製品国際価格の指標の一つに

GDTにおける乳製品売買数量の推移  
(製品ベース)



資料：GDTデータより機構作成  
注：年度は7月～翌6月

GDTにおける応札参加者の  
地域別割合 (2013年)

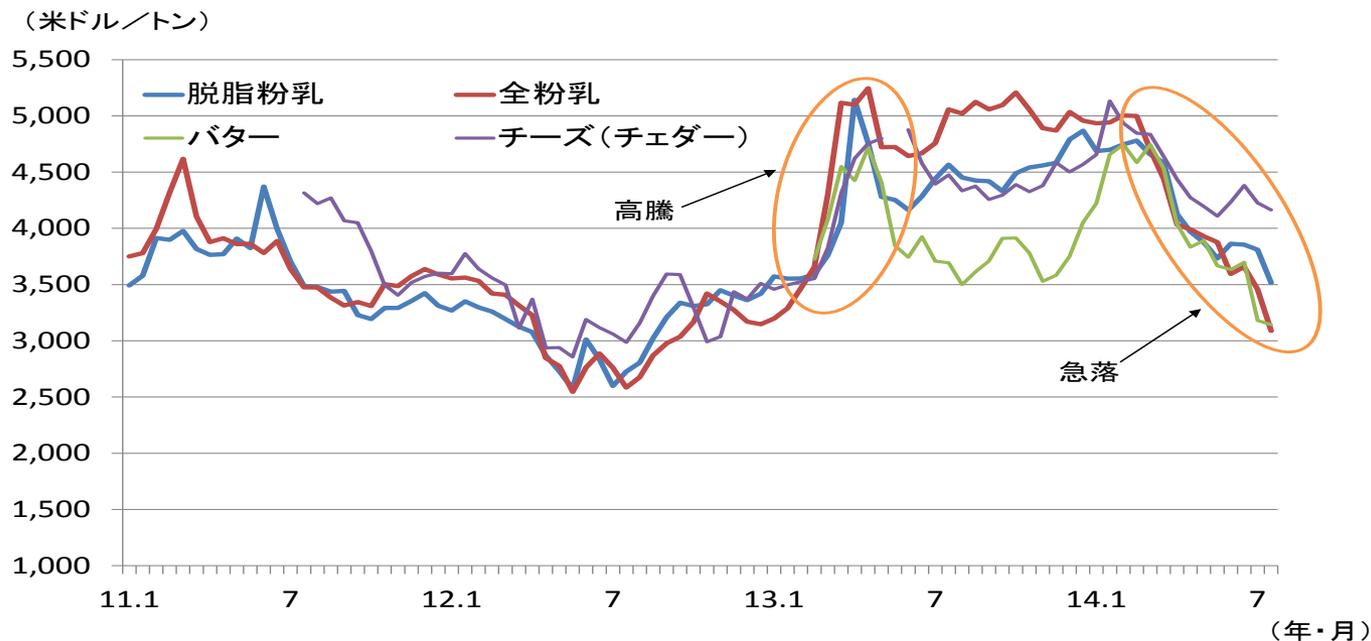


資料：GDT

## (2) GDTの価格推移

- ▶ 2013年2月頃から、主要輸出国（NZ、豪州、米国、EU）の生乳生産の減少、中国など新興国の需要の高まりが重なり、**記録的な高騰**
- ▶ 2014年2月頃から、主要輸出国の生乳生産の増加、中国の需要の緩和などから、**急落**

### GDTの価格推移



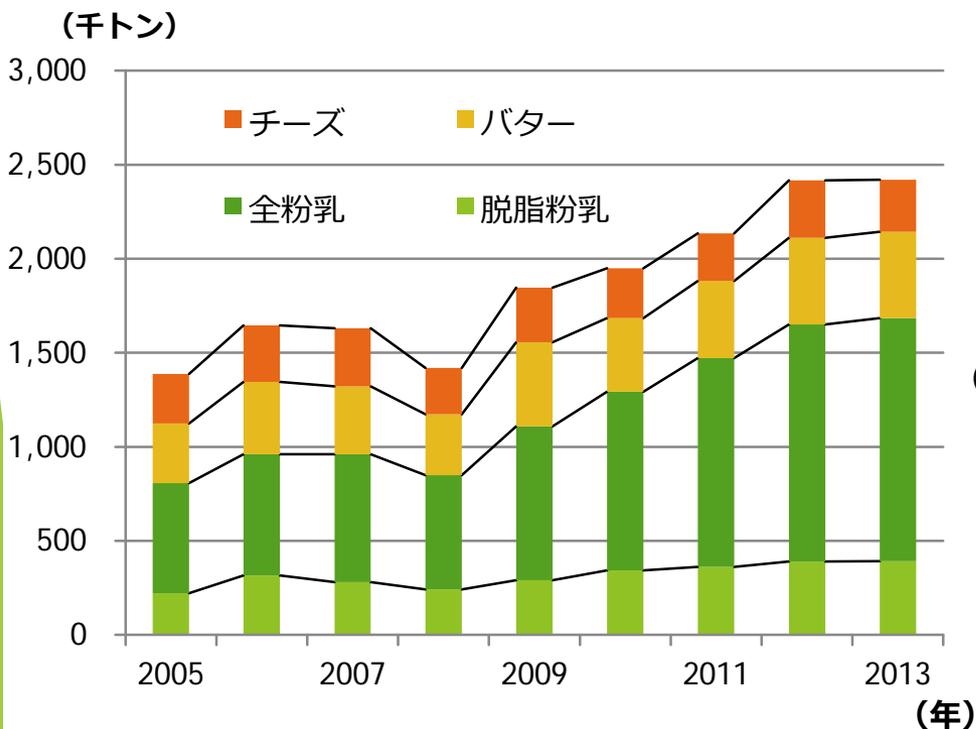
資料：GDT

## 4 NZの乳製品輸出動向

# (1) 乳製品輸出の概要

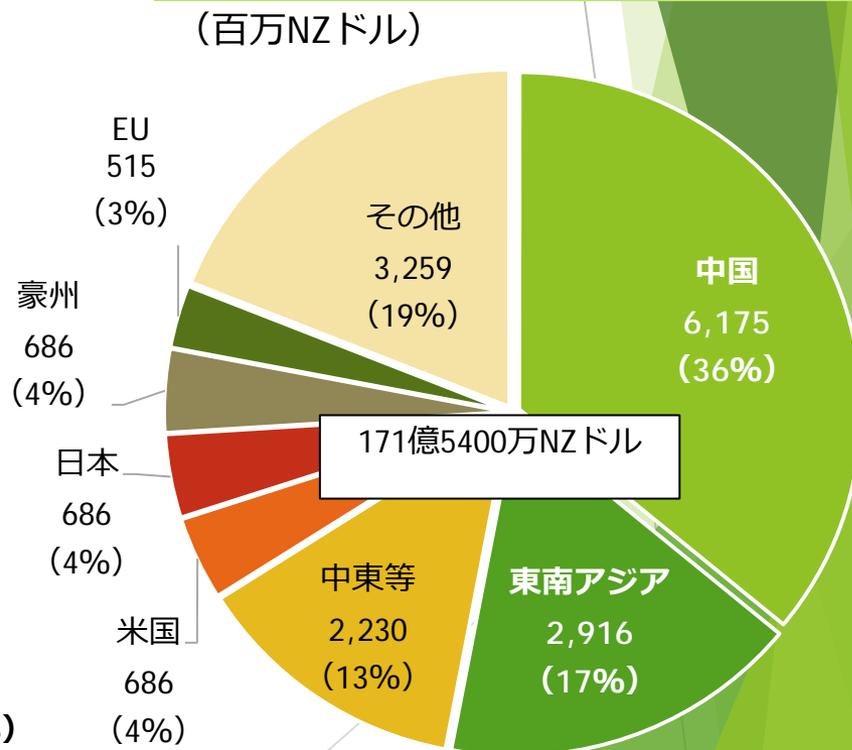
- ▶ 世界最大の乳製品輸出国
- ▶ 最大の輸出品目、全粉乳を中心に増加傾向
- ▶ 中国、米国、日本、豪州など世界各国に輸出

NZの主な乳製品の輸出量の推移



資料：Statistics NZ

NZの乳製品国別輸出額  
(2013年4月～2014年3月)



資料：NZ一次産業省資料より機構作成

## (2) フォンテラの概要

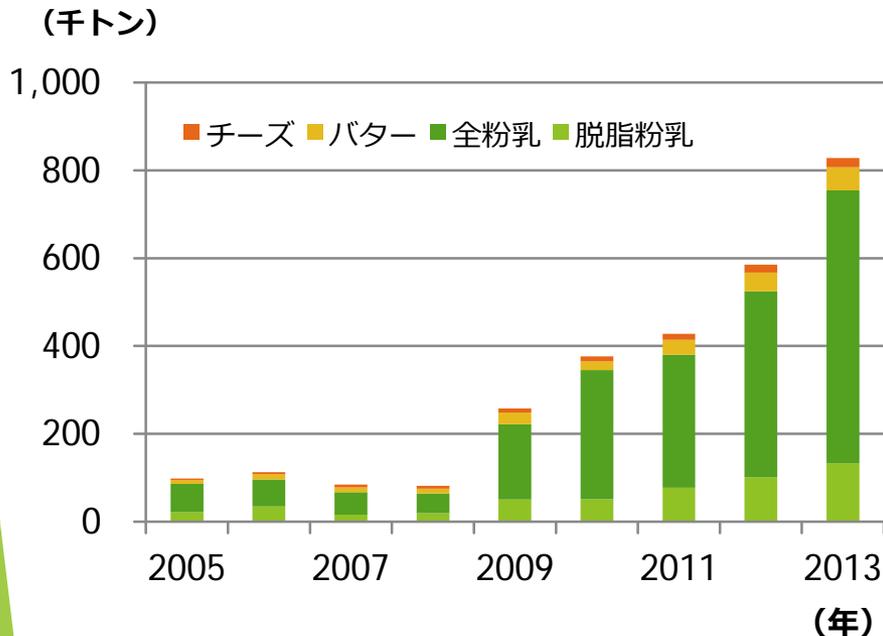
- ▶ 2001年、乳製品輸出の一元管理を行っていたNZデーリーボードと、2大酪農協が合併して設立。巨大酪農協系乳業メーカー
  - ▶ **NZ全体の生乳生産の約9割**を集乳し、世界各国に乳製品を輸出
  - ▶ 組合員である酪農家は、フォンテラの株主
- フォンテラは乳価と株式配当という形で、酪農家に利益を還元



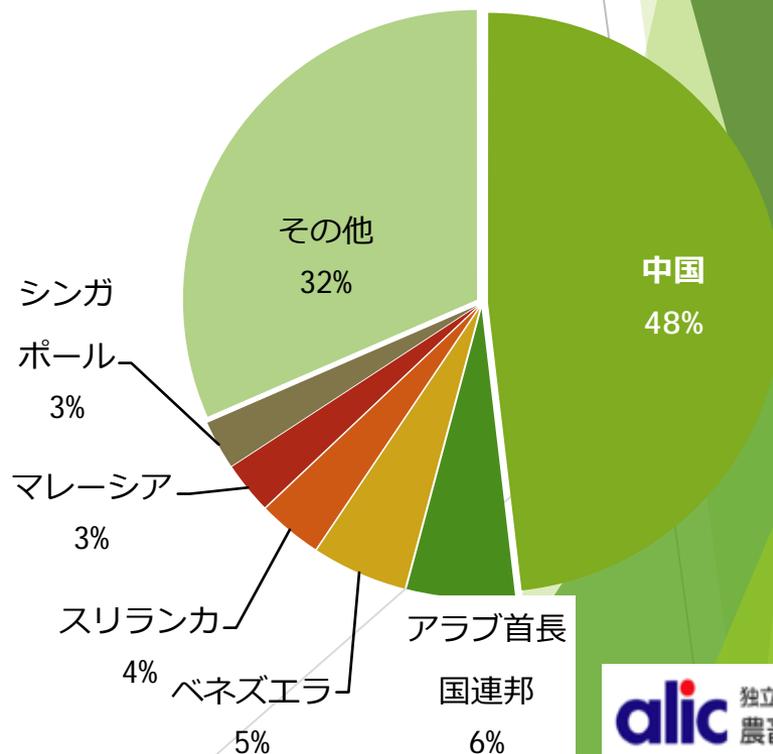
# (3) 中国向け乳製品輸出の急増

- ▶ 2008年のNZ-中国FTA締結後、急激に乳製品輸出が増加。段階的に関税が削減され、2019年にはすべて撤廃
- ▶ 中国の急激な経済成長による中間層の消費拡大が背景
- ▶ 最大の輸出品目は全粉乳。育児用粉ミルク、還元乳に利用
- ▶ NZの全粉乳輸出の5割は中国向け（中国の全粉乳輸入の9割はNZ産）

NZの主な乳製品の中国向け輸出量の推移



NZの全粉乳国別輸出割合



## (4) フォンテラの中国における取り組み

- ▶ 育児用粉ミルクなど消費者向けの栄養関連製品が中心。
- ▶ ホテル、レストラン、パン製造など食品関連企業向けの乳原料製品需要も増加
- ▶ **中国に酪農場を建設**。2012/13年度には年間4800万NZドルを投資。
  - ▶ 2014年初め、河北省に「ハブ農場」の建設を完了  
乳牛1万5000頭、生乳生産量は15万キロリットル/年
  - ▶ 山西省に「第2のハブ農場」の建設を発表。乳牛1万6000頭飼養予定
  - ▶ 2020年までに生乳生産100万キロリットル/年(中国の生乳生産の約3%)

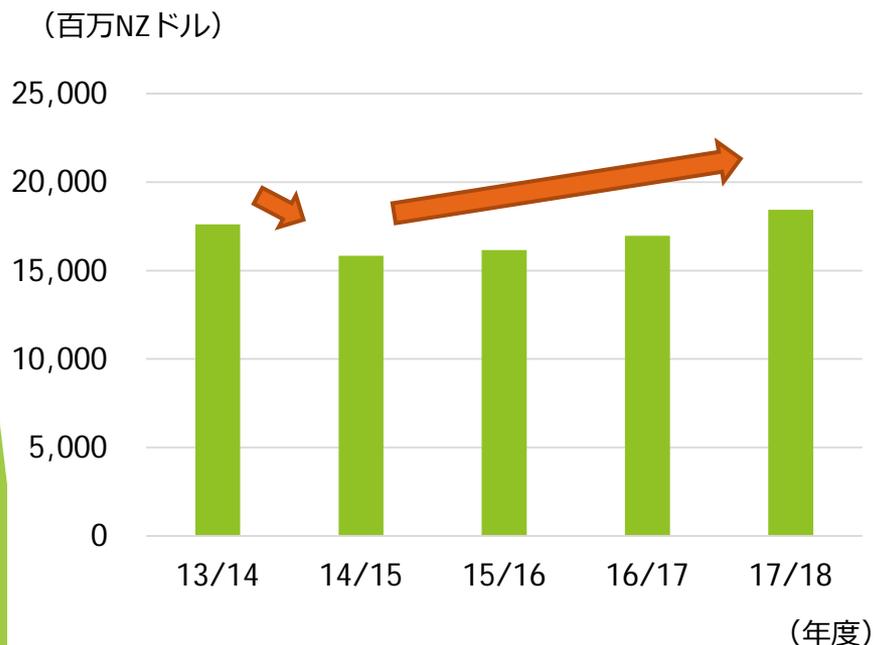


資料：フォンテラジャパン「フォンテラの取組みと日本市場への期待」より転写

# (5) 今後の見通しと課題

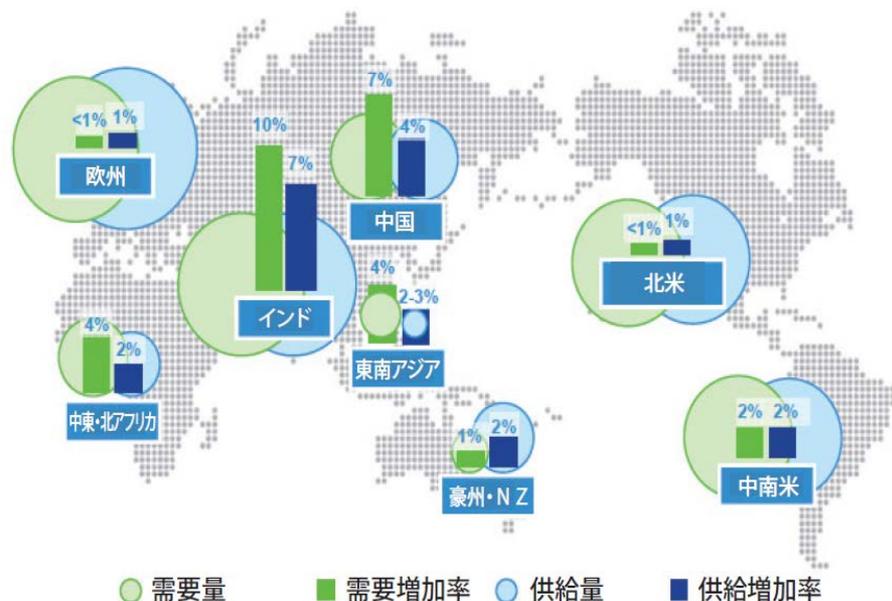
- ▶ 中国の需要は粉乳を中心として、依然として堅調。中国向け輸出の急増が顕著
- ▶ 将来的には輸出先の多様化を実現できるかが課題。フォンテラは、中長期的には、インド、東南アジア、中東・北アフリカへの輸出拡大に焦点。世界的に需要が供給を上回ると予測

NZの乳製品輸出額の今後の見通し



資料：NZ一次産業省  
注：年度は7月～翌6月

フォンテラによる2020年までの世界の乳製品需給見通し



資料：フォンテラ

# 5 まとめ

# 5 まとめ～これまでの動向と直近の動向

2013年2月頃～2014年1月頃

主要輸出国の  
生乳生産の減少

中国など新興国の  
乳製品需要の増加

乳製品国際価格の高騰

乳価の上昇

補助飼料の  
投入増加

かんがい設備への  
投資

生乳生産の増加

乳製品輸出の増加

気象条件  
の回復

2014年2月頃～

主要輸出国の  
生乳生産の増加

中国など新興国の  
乳製品需要の緩和

乳製品国際価格の下落

それでも堅調な新興国需要

高い乳価の継続

## 5 まとめ～今後の見通し

- ▶ 好調な乳価に下支えされた酪農家の生産意欲の高まりにより、生乳生産は、当面、増加見込み
- ▶ 一方、生産コストの増加トレンドは、高乳価を前提としたものであり、最近の乳製品国際価格の下落は懸念事項
- ▶ 乳製品輸出は、生乳生産の増加と中国など新興国の需要により、堅調に推移する見込み
- ▶ 中国への過度な依存から、NZの酪農乳業は輸出先の多様化に焦点
- ▶ 今後の見通しは、乳製品の国際価格と、中国など新興国の需要動向次第としつつも、NZの酪農乳業界は楽観的な見通し

# ご清聴ありがとうございました。

- 本情報は、情報提供を目的とするものであり、取引・投資判断の基礎とすることを目的としていません。本資料の正確性の確認等は、各個人の責任と判断をお願いします。提供した情報の利用に関連して、万一、不利益が被る事態が生じたとしても、ALICは一切の責任を負いません。